

日時 2011年11月22日(火) 18時30分～20時50分

場所 上大岡・オフィスタワー ウィリング横浜 6階会議室 I

出席者 【審議委員】

(敬称略) 委員長 山野井 正郎
副委員長 本多 淳一
委員 新井 克弥
委員 片桐 為義
委員 渋谷 昭子
委員 鈴木 浩
委員 鴫田 要一
委員 渡辺 ひとみ

【局側】

株式会社JCN横浜

安西 潔(代表取締役社長)、岸田 俊秀(取締役技術部長)、濱田 康平(取締役管理部長)
高橋 芳明(取締役メディア事業推進部長)、矢野 正泰(メディア事業推進部部長代理)
小林 経夫(メディア事業推進部放送制作課長)
大和 毅(メディア事業推進部メディア推進課課長代理)
加藤 直樹(メディア事業推進部)

ジャパンケーブルネット株式会社

日沖 英明(神奈川エリア制作・営業室長)

放送番組審議会概要

- (1) 審議会次第・出席者等の紹介・委員長、副委員長の選任について説明(高橋)
- (2) 代表者挨拶(安西社長)
会社概要、加入状況、地域密着方針等について説明
- (3) 委員長・副委員長の選任
委員の2年任期に伴い、委員長・副委員長の選任を行う。
→委員長・山野井氏、副委員長・本多氏に全員一致で決定。
- (4) 委員長・副委員長挨拶

●局の制作番組・今後の方針について説明(矢野部長代理、小林課長)

①2011年度の編成について

②今期の重点取り組みについて

- ・各種イベントをはじめとする地域情報、震災・台風などの災害時の情報発信や夏の節電に対する呼びかけなど、安全・安心情報にも力を入れ番組の充実に努めている。
- ・栄区長がリポーターとなり、区役所の業務や区政を分かりやすく紹介する「栄区なう!TV」を立ち上げる。
- ・「こどもかいぎ」は30回を超え、好評。今後も充実を図る。

・新番組（ペット番組）

コンセプトは「ペットと共に生きる街 よこはま」。2012年2、3月にトライアル放送を行う、新年度レギュラー番組としてスタート予定。現在、企画・構成を検討中。

●神奈川・大田エリアとJCNの制作番組・今後の方針について説明（日沖室長）

単なるエリア番組だけの制作でなく、トータルコーディネート役として局支援を行う

①2011年度の編成について

②JCN本部の取り組み、グループ共通のコンテンツについて

- ・自主制作番組のコンセプト
- ・JCN本部の取り組み（地域密着に向けて）
- ・本部制作番組について「ハッピーナビ」・・・新番組
- ・JCN復興応援プロジェクト

<委員からの主な意見・質疑応答等>

●ペット番組はデリケートな問題。飼い主のマナーなど、地域住民から反発をうけることもあるので、十分ご配慮いただきたい。被災地支援、節電も大切だが、エコも番組で取り上げてもらいたい。

●ペット関連だが、久良岐公園が整備されて、少年野球出来なくなった。最近、ドッグランを認めるように陳情があり認められた。少年野球の方がいいと思うが。ペットは可愛いが、犬のフン・おしっこ、マナー悪いのが目立つ。皆、迷惑している。番組でもマナー取り上げてほしい。

●災害情報も強化して欲しい。情報は待ってはいけない。自分から取りに行く。新しい情報を金沢区にも取りに行ってもらいたい。振り込め詐欺等の情報のほか、自転車事故、盗難、マナーについて取り上げてもらいたい。

●ケーブルテレビは、エリア限定という事もあり、横浜市370万人の中で、ある意味、中途半端な規模のため、情報については広くよりは深くを追及してほしい。今どんなことが起きているかの情報発信を頑張ってもらいたい。

●災害放送をリアルタイムで伝えようという姿勢は強く伝わっている。地域の情報細かく伝えている。計画停電時、民放等全国規模で全く分からない。TVKは県内だが、町名等ははっきり分からない。計画停電、CATVでもっと細かい情報を教えてもらえればよりよく見る。台風の映像が出ていたが、水害も怖いので放送してもらえればありがたい。乳幼児の虐待も悩ませている。家に閉じこもっている親子もいる。親子で見られるような番組がほしい。子育てを実践している父親の取材もお願いしたい。

●メディアは提案をしなくなっている・・・最近の民放などの傾向は、重鎮を一人置いてお笑い芸人を出している。予算が低くて済むし、脚本があまり要らない。
◎マニアックであること・・・こだわりの番組を作り続ける。固定客。

エリア番組「山口充のブラ釣り！」は、アシスタントが要らない。

釣り好きと議論したらどうか？。

◎出てくる人で引き付ける・・・例えばフジTVの目覚ましテレビはお天気キャスターで番組を見ていた。

散策のすすめ・・・三ツ木さんを見たくて番組を見る。CATVに向いている。

迫文代のちょい寄り・・・少し弱いと思った。

ジャンプキッズ・・・縄跳びの回数に依存していないか。リーダーを追いかけるとか、
どう工夫をしているとか

こどもかいぎ・・・車座でやった方がいいのでは。○×で手を上げさせる→対決させる。
司会者が行司をやるとか。

ケーブルテレビの番組のポイントはマニアックで、人でひきつけていくことだと思う。

●「ジャンプキッズ」ただ回数を競うのではなく、練習風景等も追っている。

「こどもかいぎ」は、司会者が多少固いと思う。学校の先生では出来ない部分を司会者がどう引き出すかがポイントだと思う。

●安心、安全に力を入れていると感じた。「こどもかいぎ」では、大人がどう感じたかも特集してもらいたい。

●動物園では、「こどもかいぎ」と同じように、職員が出前講義、学校に行って動物の話をしている。こういった模様も取材や特別企画で取り上げてもらいたい。

●番組が新鮮で、より地域密着型になっている。

以上